

イタリア総選挙の第一印象

発表日：2018年3月5日（月）

～現実味を帯びるリスクシナリオ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 田中 理

03-5221-4527

◇ イタリア総選挙の出口調査や開票速報は、事前の世論調査と比べて、五つ星運動や北部同盟が優勢。何れの勢力も過半数を獲得できないのは事前の予想通りだが、左派勢の協力による五つ星運動の政権入りや、北部同盟が右派第1党として政権を率いるリスクシナリオが現実味を帯びる。ただ、政権協力の過程で五つ星運動の政策が一段と穏健化するとみられるほか、北部同盟主導の政権が発足してもフォルツァ・イタリアがバランス役となり、極端な政策を実行に移すのは困難とみられる。金融市場で短期的に不安が広がったとしても、全面的なリスクオフに発展する可能性は低い。

日本時間の5日朝7時に投票が締め切られたイタリア総選挙の最終結果が判明するのは、日本時間の午後になりそうだが、出口調査や現地メディアの議席予想によれば、事前の世論調査対比で五つ星運動と北部同盟が票を伸ばし、フォルツァ・イタリアや民主党が伸び悩んだ模様。前回調査でも出口調査や開票速報の精度は高くなく、今後の最終結果を待つ必要があるが、事前の世論調査と比べて、五つ星運動が競合する南部地域でフォルツァ・イタリアから議席を奪った可能性がある。また、右派第1党の座は、事前の世論調査でフォルツァ・イタリアが手にすると見られていたが、現時点では北部同盟が優勢となっている。

五つ星運動、右派会派、左派会派の3勢力が何れも過半数に届かないハング・パーラメントは事前の予想通りの結果だが、右派の獲得議席が伸び悩みそうなことから、政権発足は選挙前に考えられていた以上に難航しそうだ。イタリアでは選挙後に他党から合流したり、中道政党が会派を鞍替えすることで、政権発足に必要な過半数の議席を確保することが頻繁に起こる。今回も選挙結果がハング・パーラメントとなった場合も、右派会派に中道勢力が合流して政権を発足したり、民主党とフォルツァ・イタリアが挙国一致内閣を発足することなどが有力視されてきた。ただ、現在伝えられている右派会派の予想獲得議席では、中道勢力が合流したとしても、議会の過半数を確保するのは困難な情勢だ。同様に民主党とフォルツァ・イタリアに中道勢力を合わせても、過半数には届かなそうだ。

逆に五つ星運動が事前の世論調査を上回る支持を獲得した模様で、単独政権の発足には到底届かないが、同党を排除しての政権発足が困難となる。五つ星運動はイデオロギー的には左派に近く、民主党から分裂した左派政党・自由と平等が予てより協力を意欲を示している。他に政権発足の選択肢がない場合、民主党や中道勢力の一部も合流し、五つ星運動が政権を発足する可能性も排除できない。

また、最終的に右派会派が議席を伸ばし、中道勢力の協力を得て過半数に届く場合、北部同盟が右派第1党の座を手にするか否かに注目が集まる。右派勢力の間では、会派内で最大勢力となった政党が首相を輩出することを約束している。事前の世論調査でリードしていたフォルツァ・イタリアの首相候補がタヤーニ欧州議会議長で親EU派に対し、現在右派第1党となりそうな北部同盟の首相候補は反EU・反難民

での過激な発言が目立つサルヴィーニ党首。北部同盟が右派第1党となれば、EUの大国で反EU政権が誕生することになる。

最終的な投票結果が五つ星運動の政権入りや北部同盟出身首相の誕生を示唆する場合、金融市場には動揺が広がろう。ただ、政権の姿が見えてくるまでには時間が掛かりそうで、市場の関心は8日のECB理事会などにシフトしていくと見られる。仮に五つ星運動が政権入りするとしても、他党の協力を得る過程で政策の一段の穏健化が進むと考えられるほか、そもそもユーロ離脱投票は同党の最優先課題ではない。また、北部同盟が右派第1党になった場合も、フォルツァ・イタリアの協力なしに政権は存続できない。右派第1党の座を逃してもフォルツァ・イタリアの balanサーとしての役割は変わらず、極端な政策に傾くことは難しい。金融市場で短期的に不安が広がったとしても、全面的なリスクオフに発展する可能性は低いと判断している。

以上